

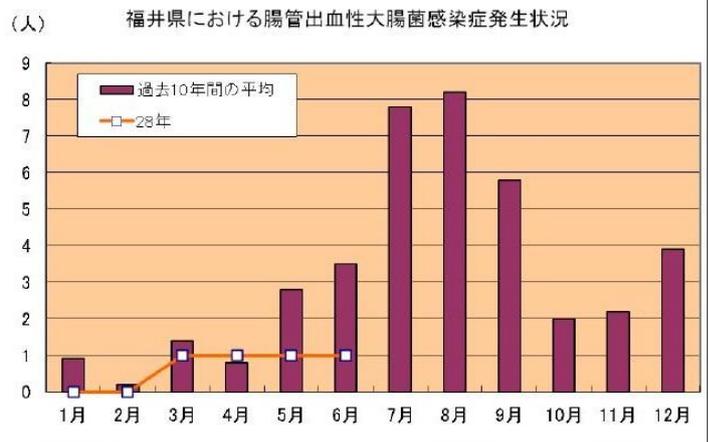


腸管出血性大腸菌感染症に注意！！

高温多湿な日本の夏は細菌が繁殖しやすい環境であり、今後、バーベキューなどの野外活動により焼肉等を食する機会が増えることから、腸管出血性大腸菌感染症の発生の増加が懸念されます。

7月8日時点での、本県の腸管出血性大腸菌感染症の発生状況は、7件9名です。

【参考】福井県医薬食品・衛生課ホームページ
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/iei/shokunoanzen/shohi-shokuchuyobou.html>



腸管出血性大腸菌 (O157、O26など)



- 生息場所** ● 主に牛などの家畜の腸管
- 原因食品** ● 牛などの家畜の糞便によって汚染された食肉、野菜やその加工品、井戸水など。
- 菌の特徴** ● 病原大腸菌の一種で、強力な感染力をもつ。わずか50～100個程度の菌数でも感染する。「ベロ毒素」という強力な毒素が大腸の血管壁を破壊し、鮮血混じりの血便が出る。
- 潜伏期間** ● 2～10日
- 症状** ● 激しい腹痛、水様性の下痢、血便、発熱(37～38℃)、吐き気、おう吐
- 初期症状が風邪に似ているため、見過ごしやすい。特に抵抗力の弱い高齢者や子供が感染すると、溶血性尿毒症症候群(HUS)などの合併症を起こし、時には死に至ることもある。
- 予防方法** ● 飲料品や食品の加熱処理。特に肉類は十分に加熱調理し、生肉は食べないこと。(加熱の目安は中心温度が75℃で1分間以上)
- 井戸水の定期的な水質検査の実施
- 手洗いの徹底(二次感染の防止)

ジカ熱・デング熱に注意！

ジカ熱やデング熱は蚊を媒介して感染します。感染を防ぐためには、蚊に刺されないこと、また、蚊の発生を抑えることが重要な対策です。

<蚊に刺されない>

- ・素足でのサンダル履きを避ける
- ・肌を露出しない長袖、長ズボンを着用する
- ・虫除けスプレーなどを使用する
- ・蚊取り線香などを使用する など

<蚊の発生を抑える>

- ・不要な水たまりを排除する。
- (1週間程度で水を入れ替えることも有効)

前号にも記事を掲載しています。御参照ください。

前号のアンケートに御協力いただき、ありがとうございました。

福井県感染症発生動向調査速報

(第22週 H28年5月30日～第25週 H28年6月26日)

- 2類:結核 8名(管内発生:1名)
- 3類:腸管出血性大腸菌感染症 1名
 コレラ 1名、レジオネラ症 1名
- 5類:侵襲性肺炎球菌感染症 1名、梅毒 1名

【発信者】若狭健康福祉センター

地域保健課 宮下

TEL:0770-52-1300 FAX:0770-52-1058

メール:w-fukusi-c@pref.fukui.lg.jp

※こちらのチラシは当センターホームページからダウンロードできます。